

## 韓国との文化交流の拠点化を目指す「現代韓国文化 研究センター」の設置

長澤, 雅春  
佐賀女子短期大学 : 副学長

<https://doi.org/10.15017/4494266>

---

出版情報 : 韓国研究センター年報. 20, pp.39-46, 2020-03-29. Research Center for Korean Studies,  
Kyushu University

バージョン :

権利関係 :

## 韓国との文化交流の拠点化を目指す「現代韓国文化研究センター」の設置

長澤雅春\*

### 1. はじめに

北部九州と韓国は、その地理的近さにより、歴史的に多くの人的・物的交流が行われてきた。とくに佐賀県はかつての文禄・慶長の役の兵站地としての名護屋城や朝鮮陶工を開祖とする有田焼によって朝鮮半島との関係はきわめて深い。今回、本学の現代韓国文化研究センターでは、九州大学韓国研究センターが主導する「人の国際的移動と社会変化」という研究プロジェクトに加わり、日韓間に横たわるそのような歴史とは離れて、現代の文学・映画から日本や韓国における現代社会の変化を読み取る研究を実施してきた。そして、韓国と最も近い北部九州地域が持つ地の利を活かし、歴史から離れてどのような教育プログラムが若者たちに有効であるのかについて検討してきた。あきらかなのは、いわゆる韓流ブームは20年近く継続してきており、とくに中高生から大学生までの女子に深く浸透していることである。これが、かつて日韓間に根強く横たわって歴史問題となり、政治化していた諸問題を、女子たちがいとも簡単にそのハードルを越えてきたことは、じつは現代の社会現象として注目すべきところである。

佐賀女子短期大学では、そのような社会現象を一過性のものとしては捉えず、日韓にまたがる諸問題の解決として日本の女子の柔軟な行動力が第一にあるのではと分析し、平和教育の一環としてさまざまな韓国との交流プログラムを開発してきた。本稿では、そうした女子たちへの支援プログラムであるダ

ブルディグリー・プログラム（日韓大学における学位の取得）、中高生「楽しい韓国語」スピーチコンテスト、現代韓国映画祭の取り組みなどについて紹介するものである。

佐賀女子短期大学は、2017年秋、文部科学省が公募する「私立大学研究ブランディング事業」に申請し、採択された。採択課題は「短期大学におけるダブルディグリー・プログラムを推進する韓日語併記学習教材の開発と韓国文化研究拠点の構築」というものであり、申請金額は1億5000万円である。

これは、「研究を研究者個人の学術的な側面だけに留まらず、大学の組織的な取組へと昇華させ、全学的な看板となる研究を推進し、その成果をもって、大学の目指す将来展望に向けて独自色や魅力を発信する取組」にたいして、「従来の個別研究プロジェクトへの支援ではなく、学長のリーダーシップの下で推進される研究を通じた全学的な『ブランディング』に係る取組として支援」されるもので、また「経常費・設備費・施設費を一体として重点的に支援する」というものでもあった。

当時の南里悦史学長（現学長 田口香津子）の指示によって、私が長年科研費を通じて行ってきた〈朝鮮総督府における「国語」政策研究〉を基盤に、地方都市における女子短期大学プログラムとしてアレンジした申請書を作成するチームが招集され、この申請書を教授会決定した後に申請した。

### 2. 現代韓国文化研究センターの設置

日本の敗戦以後の外国語教育はもっぱら英語教育

\*佐賀女子短期大学副学長 現代韓国文化研究センター長

に一本化されて現在に至っているが、そもそも日清戦争後の日本の外国語教育は多岐にわたっており、とくに併合下の朝鮮では普通学校教育のための日本語と朝鮮語との教育プログラムは特殊分野ではなかった。朝鮮語（韓国語）教育が特異な分野となったのは、戦後の大学入試の外国語科目が英語主義となったためである。

そのため、韓国語と日本語はきわめて近似した言語体系をもつもので、日本人にとっても外国語としての韓国語は修得しやすいものだという認識は戦後の中で長い間忘却され、韓国ドラマ『冬のソナタ』の2003年 BSTV 放映によって日本人の30歳以上の女性を中心となって引き起こした、いわゆる「ヨン様ブーム」と言われる第一次韓流ブームによる韓国語学習熱によってようやく再認識されたのであった。残念ながらそれまでの間、日本語と韓国語との近似性・親和性は日本国内では知られてこなかった。

この第一次韓流ブームが、次世代の韓流ドラマやK-POPを中心として第二次韓流ブーム、そして現在の第三次韓流ブームとなって、韓国語学習希望者の年齢は主婦層から女子中高生にまで引き下げられることになったのである。もう少しいえば、隣国韓国文化への接近は、10代の女子中高生たちの屈託と偏見のない世界的自由度によるものなのである。

こうした国内状況の変化を私たちは分析し、短期大学における韓国語教育の強化と、従来行ってきたダブルディグリー・プログラムのさらなる質保証、将来母となるだろう女子の平和教育としての韓国との文化交流、親和性のある日韓語の効率的教科書の作成、韓国協定大学とのプログラム交流の推進、などを申請書に謳った。

もちろん、私たちの活動は採択を受けて後に初めて事業を開始するというものではなく、これまでも地道な活動を行っていたが、しかし地域へのブランド力の創出という意味で、活動内容は拡大していくことになった。その意味では、この私立大学研究ブランディング事業の採択を受けて大きく活動を起こしたのが、「現代韓国文化研究センター」の設置の意義は大きい。

### 3. 発足記念式典

まずこの設置を佐賀地域に広く周知するため、私たちは「現代韓国文化研究センター発足記念式典」を2018年2月21（水）にホテルニューオータニ佐賀で行った。多くの方々にこの韓国研究センター（通称）の設置を認めてもらうため、文部科学省、佐賀県知事、駐福岡大韓民国総領事、佐賀市、銀行頭取、各報道機関、海外協定12大学など総勢150名ほどの参加者で賑わった式典となった。

来賓として塩原誠志 文部科学省高等教育局主任大学改革官よりの祝辞を抜粋してここに掲載したい。

「本日、ここに、佐賀女子短期大学現代韓国文化研究センター発足記念式典が盛大に挙行されますことを、心よりお喜び申し上げます。佐賀女子短期大学は、従来より、短期大学初のダブルディグリーの採用など、グローバル教育の推進を図られるとともに、全ての授業へのアクティブラーニングの導入、地元自治体と連携した地域資源の開発・普及への取り組み等を通じ、自らの強み・特色を活かした教育研究活動を積極的に展開され、大きな成果をあげてこられました。

これらの実践は全国的にも注目されており、文部科学省においても、大学教育の質的転換、短期大学の機能強化に向けたモデル的な事例として、貴学の取り組みに関する情報をたびたび活用させていただいてきたところです。

さて、現在、我が国の高等教育をめぐる状況は大きく変化しています。グローバル化の進展等に伴い大きな構造転換が急速に進んでおり、未知の時代を切り拓く人材育成や知的創造活動の中核を担う高等教育の役割が、従来にもまして重要となっています。「第4次産業革命」の進展は、資本集約型から知識集約型への産業構造シフトをもたらすと予測されており、地方の企業等であっても、世界の情報・市場と直結して生産性の向上・高付加価値化を図り、我が国産業の主役となり得る時代を迎えると指摘されています。「地方創生」が、我が国の成長・発展の鍵となっており、こうした地方のポテンシャルを引き出すためにも、地域の高等教育機関がより一層の

機能を発揮することが期待されます。

一方、本格的な人口減少社会の到来により、高等教育の主たる進学者である18歳の人口は、今後さらに大きく減少していくことが不可避となっています。とりわけ地方の過疎化・少子化は深刻な状況となっており、地域における質の高い高等教育機会をいかに確保していくかが、高等教育政策における最重要課題の1つともなっております。

このような中であって、高等教育の機会均等や、地域を支える専門職業人材の養成、女性の社会進出等に貢献してきた短期大学の役割は、今後、ますます重要になると考えられます。地域に根差したより身近な短期高等教育機関として、小規模であっても、そのメリットを活かしたきめ細かな教育を行い、「地方創生」の担い手育成や社会人の再教育ニーズ・生涯学習ニーズへの対応、グローバル化への対応など、社会の要請に積極的に応えていくことで、今後もその機能を維持・強化していくことが期待されます。

とりわけ、グローバル教育、地域連携、短大教育の質向上等に多大な貢献をされてきた佐賀女子短期大学が、このたび、その成果を基に、さらに現代韓国文化研究センターを整備され、東アジアの教育研究拠点として、その活動を発展させていくことは、我が国の短期大学教育・高等教育にとっても、非常に意義深いことと存じます。

本センターが、蔚山科学大学をはじめ内外の高等教育機関との協力を通じ、また、地元自治体・産業界等をはじめ関係機関との連携の下に、日韓の比較文化研究や語学教育、学生交流・市民交流等に大きな成果を上げられ、佐賀から国内外に向け、広くその成果を発信されますことを祈念しております。」

1	九州大学	韓国研究センター (RCKS)
2	東京大学	韓国学研究中心 (CKS)
3	同志社大学	コリア研究センター (DOCKS)
4	立命館大学	コリア研究センター (RICKS)
5	慶應義塾大学	現代韓国研究センター (KCCKS)
6	静岡県立大学	現代韓国朝鮮研究センター
7	一橋大学大学院	韓国学研究中心
8	佐賀女子短期大学	現代韓国文化研究センター (SWRK) Saga Women's Junior College Research Center for Contemporary Korea culture

こうして全国8番目、短期大学としては初めてとなる韓国研究センターを発足させた。

#### 4. 日韓合同産学連携シンポジウムの開催

本学の現代韓国文化研究センターの活動は、日韓の人文分野における研究と連携である。そのため、協定大学である蔚山科学大学との合同シンポジウム第3回、第4回を以下のように本学において開催している。

##### (1) 第3回日韓合同産学連携シンポジウム

(2018.12.2 (日))

課題：地域共生社会実現に向けた地方の短期大学教育の在り方

主催：佐賀女子短期大学 現代韓国文化研究センター  
蔚山科学大学 創業教育センター

後援：スマートファーマー (韓国)

第1部：学生による発表

地域の課題と共生へ向けたグローバル創業への提案

—— 日韓の学生による地域の課題発見と課題解決 ——

第2部：シンポジウム 地域共生と地方短期大学の在り方

① 4次産業革命の教育と地方大学の未来

張志雄 蔚山科学大学コンピューター情報学部専攻主任教授

② 大学の創業教育に関する地方大学の現状

劉相溶 蔚山科学大学創業教育センター長

③ 佐賀女子短期大学の活性化へ向けた試み— 地方短期大学のブランディング事業—

長澤雅春 現代韓国文化研究センター長

##### (2) 第4回日韓合同産学連携シンポジウム

(2020.1.12 (日))

課題：第4次産業革命の時代における日韓の短期大学教育

主催：佐賀女子短期大学現代韓国文化研究センター  
／蔚山科学大学創業創職教育センター

協賛：韓国 (株) YOOSUNG / 後援：アジアナ航空株式会社

参加大学：佐賀女子短期大学 / 香蘭女子短期大学 / 蔚山科学大学 / 漢陽女子大学

【開催の趣旨】

急速に進行する少子高齢化に対応すべく、日韓両国ではグローバル化と第4次産業革命が同時並行で進んでいる。これに伴い社会で求められる人材像も大きく変わりつつあり、多くの若者の最終学歴となる日韓の短期大学においても、所在地の環境に応じて工夫を凝らした教育改革が進められている。昨年の本シンポジウムではグローバル化の時代における多文化共生の視点を軸に議論を行なったが、今回は第4次産業革命の時代の人材育成の視点から議論を進める。

第4次産業革命の進行に伴い、近い将来多くの仕事がAIやロボットに取って代わられるものの、その一方で、保育士や教育者、栄養士、介護福祉士など、現在短期大学で養成を行なっている職業は残ると予測されている。これらの仕事の多くは濃密なヒューマンコミュニケーションが求められる仕事であり、逆説的だが、AIの時代だからこそ、ある意味で反AI的人材が求められていることになる。

本シンポジウムに参加する短期大学では、このような時代を生き抜く力を養うために、体験・活動・実践的な様々なアクティブ・ラーニングを行なっている。本シンポジウムでは前半にそれらのプログラムに参加した学生によるコンテスト形式の事例報告、後半はそれらに基づく議論を行なう。

【第1部】 グローバルビジネスプランコンテスト

— 地域振興のための起業・創業・地域連携 —

蔚山科学大学・佐賀女子短期大学、漢陽女子短期大学による日韓学生による合同グループ発表

講評：NPO 法人鳳雛塾ファウンダー / 佐賀銀行営業統括部主任調査役 横尾敏史

【第2部】 シンポジウムと事例報告

— 第4次産業革命時代における日韓の短期大学教育 —

- ① 4次産業革命の教育と地方大学の未来  
アン・ジョンヨル

蔚山科学大学電子電機工学部教授

- ② 大学の創業教育に関する地方大学の現状と未来

劉相溶 蔚山科学大学人材開発処副処長

- ③ 創業教育に関する短期大学の現状— 漢陽女子大学を中心に—

ユン・ミキョン

漢陽女子大学 創業センター長

- ④ 香蘭女子短期大学の課題解決型教育プログラム

中濱雄一郎 香蘭女子短期大学学生部長

このように、私たちは日韓の学生たちの合同チームによる、地方都市における創業アイデアコンテスト及び日韓の短期大学が抱える課題について議論を重ねてきた。日韓をまたがるこのような試みは、短期大学の試みとして有意義なものではないだろうか。2020年度冬には蔚山科学大学もしくは漢陽女子短期大学での開催を予定している。

5. 中高生「楽しい韓国語」スピーチコンテストの開催

本学韓国研究センターでは、2018年5月27日(日)韓国語スピーチコンテストを初めて開催し、佐賀地





2作品を通じて、現代韓国の魅力はもちろん、現実的な社会の姿に触れて頂くことで、韓国に対する理解を更に深める機会になればと思います。

大阪韓国文化院院長 鄭泰九

上映作品は『チャンス商会～初恋を探して～』（2015年公開111分 CJ Entertainment Japan 配給）、『辺山（ピョンサン）』（2018年公開123分 MEGA-BOX（株）PLUSM 配給）の2作品で、いずれも入場無料での開催である。それぞれの作品終了後には、

スクリーン前にて佐賀日韓交流会代表のハン・ヒキョン氏と長澤とで作品解説をトークし、韓国映画に不慣れな観覧客に韓国映画作品の魅力について語った。100席という小規模なスクリーンだがほぼ満席となり、それまで韓国映画に触れることのなかった一般市民たちが、とくに『チャンス商会』では涙を流し、会場のいたるところから嗚咽する声が聞こえてきた。

第2回

# 現代韓国映画祭 in SAGA



©2018「焼肉ドラゴン」製作委員会

**焼肉ドラゴン** 15:00 受付

配給：KADOKAWA（2018年公開、126分）  
 監督：鄭義信（『月はどっちに出ている』『血と骨』など多数）  
 出演：大泉洋、キム・サンホ、真木よう子、イ・ジョンウン、井上真央、他

2020年3月5日(木)

15:30~21:30

映画：15:00&18:30 受付

シンポジウム：17:30 受付

**アバンセ ホール**

佐賀市天神3丁目2-11

★各 300 名定員

★事前申込 不要

詳細は裏面もしくはHPにて

**入場無料**

シンポジウム「現代韓国映画について」 18:00~18:40

**波瀾 剛**

九州大学 教授  
 韓国研究センター  
 副センター長

**西谷 郁**

西南学院大学 非常勤講師  
 アジア映画研究

**柳 忠熙**

福岡大学人文学部  
 東アジア地域言語学科 講師  
 東アジア近現代思想研究

**長澤雅春**

佐賀女子短期大学 教授  
 現代韓国文化研究センター  
 センター長



**国际市场で逢いましょう** 18:30 受付

配給：CJ Entertainment Japan（2015年公開、127分）  
 監督：ユン・ジェギユン  
 （『コンフィデンシャル/共助』『ヒマラヤ』など多数）  
 出演：ファン・ジョンミン、キム・ユンジン、オ・ダルス、他



©2014 CJ E&M CORPORATION, ALL RIGHTS RESERVED

主催：現代韓国映画祭 in SAGA 実行委員会  
 共催：九州大学韓国研究センター  
 後援：韓国国際交流財団、佐賀県、佐賀市  
 駐福岡大韓民国総領事館、佐賀新聞社  
 駐大阪韓国文化院、佐賀県立名護屋城博物館



佐賀女子短期大学  
 現代韓国文化研究センター

## (2) 第2回現代韓国映画祭の開催

映画『シュリ』(1999)以前には「アジア映画」として一括りにされてきた韓国映画だが、いまや「韓国映画」としてのブランドジャンルを築き上げているといっても過言ではない。2020年冬の米国アカデミー賞で『パラサイト—半地下の家族—』が作品賞、監督賞、国際映画賞、脚本賞の4部門を受賞したことで、これまで韓国映画に関心を持たなかった人々までがいまや韓国映画を話題にし始めている。その話題性の真只中、九州大学韓国研究センターを共催として、第2回現代韓国映画祭が2020年3月5日(木)、佐賀市のアバンセホール(301座席)において観覧無料開催することとなった。後援は韓国国際交流財団である。

上映作品は『国際市場で逢いましょう』(2014)と『焼肉ドラゴン』(2018)の2作品である。『国際市場で逢いましょう』は1950年朝鮮戦争の勃発によって生き別れた家族の半生の物語である。一方の『焼肉ドラゴン』は、鄭義信による演劇作品を新国立劇場(日本)と芸術の殿堂(韓国)によって両国上演したもので、舞台背景は、済州島4・3事件によって難を逃れて関西の朝鮮人部落に移住した1969年の一家族の物語である。いずれの作品も、朝鮮半島の政治的動乱によって家族が生活の地を追われ、それでも家族を守って力強く生き抜く物語である。両作品を通じて考えさせられるのは、「家族とは何か」

という私たちにとってきわめて身近な問いである。

しかしながらこの韓国映画祭は、2020年2月より襲った世界的な新型コロナウイルス感染の流行により、2月26日(水)、やむなく中止延期となったことを報告しなければならない。

## 7. おわりに

本学の現代韓国文化研究センターは、地域と韓国文化との接点を構築し、これを広く周知し認知度を高めていくことに当面の課題がある。そして本学学生には、同年代の韓国人学生との交流を経験させ、また韓国語を学習する機会、韓国留学の機会を提供することにある。2019年度夏季韓国文化韓国語研修(7日間~21日間)は、大邱大学・培材大学・馬山大学・東義科学大学の4大学に総勢50名を派遣した。また、2020年2月にはダブルディグリー・プログラムとして、馬山大学・翰林聖心大学・蔚山科学大学に22名、交換留学生として培材大学・慶南大学に7名、計29名を1年間の韓国留学に派遣する。

そして派遣だけでなく、韓国からの受け入れも活発に行われており、2020年は総勢40名ほどの韓国人学生の受入れを行うことになっている。佐賀市という地方都市にある小さな地方の女子短期大ではあるが、韓国との文化交流、人的交流、大学間交流はかなり活発に行われているものと自負している。

## **Establishment of “Research Center for Contemporary Korean Culture” aiming to become a base for cultural exchange with Korea**

**Nagasawa Masaharu**

**(Research Center for Contemporary Korean Culture, Saga Women’s Junior College)**

### **Abstract**

In the fall of 2017, Saga Women’s Junior College was selected to receive the Ministry of Education’s “Private University Research Branding Project” grant. It was targeted for the research that is not only limited to the academic aspects of individual researchers, but also is sublimated into a systematic initiative of the institution in order to transmit its own appeal and uniqueness for the future prospects. Instead of the conventional individual research projects, the grant was aimed to support for the initiatives related to university-wide “branding” through research conducted under the leadership of the President. Saga Women’s Junior College was the only institution that was selected for the research specializing in Korean culture. As a result, the college has established the Research Center for Contemporary Korean Culture, which serves as a base for Korean culture research and exchange of all junior colleges in northern Kyushu area. Number of activities and events were held such as Korean Speech Contest, International Conference, and Korean Film Festival. This paper introduces various activities of the center.